



石狩浜の風景(2012年7月撮影)

ハマニンニクで作られた「テンキ」

いしかり砂丘の風資料館から徒歩1分。大きな石狩浜が目の前に広がります。そこに4月の終わりごろから青々とした葉を伸ばし、夏から秋にかけて海辺を緑色に覆う植物があります。ハマニンニク(別名…テンキグサ、ムリ、モロチなど)と呼ばれるイネ科の植物です。市内では厚田区や浜益区の砂浜海辺にも生えています。

江戸・明治期の記録には、蝦夷地や千島列島で、アイヌ民族がこの草でひも(縄)を編んだり、「テ

ンキ」と呼ばれる小物入れが作られていたと書かれています。江戸後期に記された、蝦夷地・樺太巡見日誌『入北記』(玉蟲左太夫・1857年)にも、石狩付近のこととして、「只石狩或ハマシケノ岬ヲ望ムノミ。(中略)、荒草藁々トシテ其内野蘭ト唱ヒ菅ニ似タル草多ク生ズ。土人は是ヲ取リテ縄ニ用ユルト云フ。」と書いていますから、「菅ニ似タル草」はハマニンニクのことと考えられ、石狩湾周辺においても縄を編む材料に

されていたのでしょうか。ところで、今ではテンキやひもをつくる方法は、現代に伝わっておらず幻の技術となっています。国内外の博物館に残されているものを見ると、緻密で精巧な仕上がりで、丹念な手仕事により作られています。

昨年、いしかり砂丘の風資料館では、石狩浜海浜植物保護センターとの共催で、石狩浜のハマニンニクを用いたテンキなどの製作技術に挑戦する体験講座を開催

テンキ(ハマニンニク製の小物入れ)
容器径184mm、1919年以前、
北海道開拓記念館蔵



(荒山千恵)

しています。今年も7月27日(土)に市民図書館を会場に開催します。海辺の植物を利用した先人の技と知恵にふれながら、一緒にテンキ作りを体験してみませんか。



石狩浜のハマニンニクでテンキ作りに挑戦
(体験講座参加者やいしかり砂丘の風の会の方々による作品)

7/27(土) 体験講座 テンキ作り

この機会にぜひ参加してみませんか?

詳しくは20ページ「イベントカレンダー③2」をご覧ください。

ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。



荒山千恵 Arayama Chie

専門分野は考古学。北海道での遺跡発掘調査をはじめ、出土した木の道具、音の考古学などの研究を行う。